

会 議 録

会議名	令和5（2023）年度みよし市障がい者自立支援協議会第1回全体会
日 時	令和5（2023）年7月28日（金）午前10時から正午まで
場 所	みよし市役所3階 研修室1，2，3
出席者（敬称略）	別紙参照
欠席者（敬称略）	えがお、みよし市身体障害者福祉協議会、人材育成検討チーム事務局
傍聴の有無	1名

発 言 要 旨

1 あいさつ

本日は、お忙しいところまた暑いところお集まりいただきありがとうございます。日本人の人口が14年連続で減り、またすべての都道府県で減少というニュースが流れていた。障がい福祉の向上を考える中でも一つの大きなテーマになるかと思う。もう一つは、新型コロナウイルス感染症。今まで取り組んできた活動がまた萎縮してしまう心配をしている。人や社会と繋がっていることが当たり前だった。感染症が蔓延しても、新しい繋がりの方を学んだということが大事だと思う。万が一また広がったとしても、繋がり続けるという努力をしていきたいと強く思っている。

協議会は今年度の運営目的や事業計画に基づいて進めてきている。本日は、その事業報告をしながら、様々な立場でみよしの障がい福祉を考える構成員の皆様と意見交換をしていながら、今後の取り組みに繋げるために活発な議論をお願いしたい。（会長）

日頃は、本市の障がい福祉行政にご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。またお忙しい中、大変暑い中、協議会にご出席いただきましてありがとうございます。この全体会では、本市の障がい福祉に関わる機関が集まり各部会の報告から地域の課題を確認するとともに、今後取り組むべきことについて協議している。協議会で出された意見に基づく施策を実行することにおいて、ここ数年障がい福祉に関する施策が充実していると自負している。協議会の皆様が市の障がい福祉の課題を我が事と捉えて精力的に取り組んでいただいている賜物。深くお礼申し上げます。また、本市が取り組むべき課題はたくさんあると思う。今後も引き続きよろしく申し上げます。

本市は障がいのある人やその家族からのあらゆる相談に対応できるように、本市の市内法人に障がい者相談支援事業を委託している。令和5（2023）年度は、社会福祉法人昭徳会が新たに増え、7法人に委託し、計9人の相談支援専門員がいる。相談支援専門員の業務も増えてきていて、行政としてもそれに合わせるべくこのように増やしていくように努める。また、令和5（2023）年度から相談支援専門員同士の情報共有やコミュニケーションを活発にし、連携をより強化するため、基幹的相談支援センター担当以外の相談支援専門員もくらし・はたらく相談センターに可能な範囲で勤務することになっている。情報連携をしながら相談支援事業を進めていただきたい。また、今年度は障がい福祉計画の策定年度となっている。策定にあたって協議会の皆様にも多くご協力をいただいている。

全体会は年3回開催することとなっている。今回は令和5（2023）年度第1回目で、今年度の各専門部会の取り組みについて各機関で共有する。皆様からの忌憚のないご意見を申し上げます。（福祉部長）

2 協議事項 令和5（2023）年度のみよし市障がい者自立支援協議会について

(1-1)運営会議の事業計画について、事務局福祉課立石から説明。

(1-2)人材育成検討チームの事業計画について、事務局代理『しおみの丘』秋田氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
<p>会長 谷口氏</p>	<p>相談支援専門員が9人いるとのことだが、同規模の地域や人口規模で9人というのは、多いのか少ないのか、充足されているのかどうか。</p>
<p>福祉課 清水</p>	<p>今年度の4月または5月に基幹的相談支援センターの相談支援専門員が一宮市へ視察に行っている。人口は、38万人程度。6区画に分けており、各区画に2人ずつ基幹の相談支援専門員と委託の相談支援専務を配置しているとのこと。みよし市の人口規模が6万人、一宮市でいうと1区画がみよし市と同規模になる。一宮市が6万人で2人の相談支援専門員に対し、みよし市は9人の相談支援専門員が配置となっているため、一宮市よりは手厚い配置になっている。参考に、豊田市の状況を副会長にご説明いただきたい。</p>
<p>副会長 阪田氏</p>	<p>豊田市の人口は42万人程度で、北部、中部、南部、中山間の4ブロックに分けている。中山間ブロックは面積は広いが人口が少ない。相談支援専門員は、ブロックごとに分かれていて、中山間が3人、北部は2人、中部が6人、南部が3人。ブロックごとに地域の課題を集約し、全体に上げる仕組み。みよし市は充実していると思う。</p>
<p>しおみ 松平氏</p>	<p>みよし市内の事業所が増え、同じ事業内容をしている事業所とは日頃からお付き合いがあり、情報交換や相談する機会は多いが、事業内容が異なっている事業所や新しい事業所とはお付き合いはあまりなく、今回のような研修でとても刺激になった。どの事業所も事業内容は異なっているが、障がいを持たれた方の役に立ちたい、役に立つという思いは一緒だと思っている。今後もみよし市の福祉の向上のために引き続きこのような研修をお願いしたい。</p>
<p>わらび 熊谷氏</p>	<p>研修委員を募って計画したことは意味のあることだと思う。また、市内から約20人の管理者が集まったことも今までの繋がりがあってのことだと思う。もし望むのならば、せっかくみよし市内で行っているため、ライフステージ（児童分野・成人分野）ごとの意見交換ができると良い。児童が成人になった時に、この点は児童分野で押さえておいてほしいとか、逆に児童は成人になるにつれてどのようになっていくのかという意見交換ができると、市内で研修をする意味も強く出てくるのではないかと思う。</p>

(1-3)暮らしの場検討チームの事業計画について、事務局『相談支援事業所わらび』深田氏から説明。

(1-4)地域生活支援拠点検討チームの事業計画について事務局『しおみの丘』秋田氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
<p>泰山寮 近藤氏</p>	<p>緊急時の受け入れということで、入所施設で24時間365日営業しているため、みよし市の中では最も受け入れがしやすい。また、していかなければならない施設。どのような時が緊急時になるか、位置づけはどうか確認したい。他の自治体や福祉圏域で地域生活支援拠点の緊急時の受け入れ先の準備を整えて既に</p>

	<p>実施しているところもあるかと思うが、実績はどうか。また、ショートステイの満床時に緊急時受け入れの依頼があった時、和室やホール等を使える体制を作っていければと思っている。報酬や事故の問題も行政とまた詰めていきたい。実績について、豊田市はどうか。</p>
<p>副会長 阪田氏</p>	<p>豊田市での実績はない。親御さんが急に入院になった時等にどうするかをその時すぐに考えると大変なため、前もって準備をするために協議している。緊急時の受け入れスペースや泊まる場所の確保は当然議題になっている。豊田市の場合、無門福祉会と光の家が24時間サポートの施設だが、施設が受けるのではなく、相談支援が中心となって考えている。無門福祉会としては、意識的に職員に浸透させ、受け入れる体制はきちんと取っている。ショートステイの機能で賄っており、色々な課題もある。みよし市では、自立支援協議会で検討チームを作って協議しているため、進んでいるという認識。</p>
<p>手親の会 岸野氏</p>	<p>事業所と繋がっている人は宿泊体験の場所があるが、事業所と繋がっていない人は宿泊体験の場所がない。宿泊体験希望調査表の中に「地域移行支援」という文言があり、入所や入院をしている人が地域で生活するため、宿泊体験をするニーズの聞き出しをするということで、幅広い宿泊体験について検討していてとても心強くありがたい。</p>
<p>会長 谷口氏</p>	<p>住まいの場の確保について、社会福祉協議会も困窮世帯の相談支援を市から委託を受けて実施している。相談の中で、この地域特有の働き方、いわゆる物作りの人たちが多く、他市町村から単身で来ていたり、社宅で勤務する人がいる。少なからず住居の問題は出ていて、この地域の特性だと思っている。内容は、相談者側の課題もあれば、貸す側の課題もある。このように立場の違う人達がそれぞれの視点で集まって話し合い、課題を知って共有することから始めている。分野が違う話になるため、丁寧に取り組み、継続してほしい。</p>
<p>みよしはたらく協議会 小西氏</p>	<p>去年まで相談支援をしていて地域診断表を作っていたが、今年の4月から相談支援を外れて運営会議にも参加しなくなった。相談支援を外れてから日も経っていないが、診断表の評価をしてもよく分からないというのが正直な感想。相談支援をしていた時の評価の値とも全く違う。相談支援としての立場と事業所としての立場が変わるとこんなに変わるのかと思っている。自立支援協議会の報告があった時や資料が届いた後に評価ができると、取組を確認してから評価ができる。また、事業所としての立場として評価したら良いのかと疑問に思うこともある。目安も十分分かっているつもりだが、今回よく分からないというのが相談支援を外れて地域診断表を見てみて感じたことだった。</p>
<p>(2)児童部会の事業報告について、事務局『相談支援OKサポート』堤氏から説明。</p>	
<p>部会長 熊谷氏</p>	<p>アンケートについて、児童部会で意見を多くもらったため、内容を練り直している。新型コロナウイルスの影響で止まっている取組もあるため、早急に進めたい。特にアンケートは、早めに修正を行い、もう一度皆さんと確認したい。児童部会が年に数回の開催のため、内容のやりとりを今後メール等でもできると良い。</p>

(3)就労支援部会の事業報告について、事務局『みよし市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所』中村氏から説明。	
部会長 山口氏	令和4年度第3回の全体会で、就労支援部会で障がいに限らず働くことに関して検討したいということをお話したが、事務局で改めて検討したところ、自立支援協議会がそもそも障がいについて考える場ということで、差し戻しになった。今年度の就労支援部会では、障がいを持っている人の働くについて考えるという取組に戻して活動したいと思っている。
構成員名	意見（質問・回答）等
豊田市こども 発達センター 神谷氏	アンケートについて、豊田市も同じような取組を行っている。委員に募るとこれもあれも聞いてみたいと質問項目が膨大に増えてくるが、目的が薄れてしまう。質問事項の選定の難しさは実感している。今回の乳児保育を担当している保育士向けの実態調査は、何を目的にするのか、その目的に合った質問だけ抽出して行う方がぶれなくて良いかと思う。以前、豊田市でアンケートを行った時は、保育士から見た発達に支援が必要な子どものパーセントとその子どもを支援する上で保育士が支援方法に迷うことはどのようなことかという2点のみ。その結果興味深かったことは、市立こども園と認可外託児所の両方で2歳以上を対象に行ったところ、認可外託児所の方が支援が必要な子どもたちの率が高かった。市立こども園に対する支援を重点的に行っていたが、認可外託児所への支援も実は重要だが仕組みができていないと気づくことができた。実態全部を調査するのではなく、1点に絞っても良いのではないかと思った。
学校教育課 長谷川氏	つながりシートについて、保育園・幼稚園から作ってもらい、学校現場としてはありがたい情報をもらっている。入学前に情報をもらえるため、入学時に支援方法も考えられるし、保護者の考えも聞くことができるため本当にありがたい。強いて言えば、もう少し事前にももらえると今よりしっかりとした準備ができる。また、移行段階の取組でリレーシートについて必要性を検討するということがだが、リレーシートは小学校に上がったからの中学校高校に繋げるリレーなのか、今まで作っているつながりシートを改良する追加するという意味でのリレーなのか聞きたい。
事務局 堤氏	小学校から中学校、中学校から高校、その先の就職までのリレーシートを検討していきたいと思っている。
学校教育課 長谷川氏	小学校中学校高校と繋がっていくため、個別の支援計画と指導計画を作っている。つながりシートも個別の支援計画の項目に似せた工夫を今までもしているかと思う。毎年保護者と保護者の意向や子どもの将来の姿を確認しながら作っているため、新たに作るのではなく、今まで使っているものを上手に改良しながらやっていると、学校現場等の負担も少なく良いかと思う。
事務局 堤氏	今あるものを活用することも視野に入れつつ、足りないところをどのようにしたら良いかも部会の中で検討していきたいと思っている。
豊田公共職業安定所 竹田氏	今年度の取組の中でハローワークでは、職場体験冊子の配布に携わっている。現在人口減少が続いているとともに、労働力人口も徐々に減っている。そのような

	<p>中で企業が経営を維持していくためには、従来の雇用の確保・人材の確保の方法では足りない部分というのも見えてきている。多様な人材の活用ということで、障がいを持つ人の活躍の場が増えるということは、今後労働力人口を確保する上では重要な意義を持つ。職場体験を受け入れてもらう取組を積極的に進めたい。</p>
<p>西三河北部障害者就業・生活支援センター 西村氏</p>	<p>みよし市の定着率はどのような状況か調べることは意味のあることだと思う。令和3年度の定着率について障がい別で調べ直したことがある。その結果、定着の相談が多いのは精神障がいの人と発達障がいの人。知的障害や身体障害の人に比べて、精神障がい・発達障がいの人との相談がほぼ半数になっている。定着率は、障がい種別や職場の状況に左右されるということを実感した。障がい別等も踏まえながら見ると、みよし市での就労の傾向が出てくるかと思う。</p>
<p>三好特別支援学校 井上氏</p>	<p>就労体験について今年度計画している。雇用する側からの問い合わせが今年度は多い。職場体験冊子の配布は、会社の人にも知ってもらう上で良いことだと思う。会社の人事と話すことが多いが、現場の人との調整が職場体験実習が上手くいくかどうかに関わってくる。現場の人とすり合わせしていけるように進めたい。</p>
<p>(4) 精神保健福祉部会の事業報告について、事務局事務局『みよし市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所』江川氏、『はたらくサポートセンター』藤城氏から説明。</p>	
<p>部会長 兼重氏</p>	<p>みよし市でも、退院できるにも関わらず退院できない人がいる。原因は、地域に社会資源が足りないことや家族の何らかの事情等。まずは課題があるかを知るため、退院事例を1つ取り上げながら、課題抽出のための事例検討会を行う予定。また、ピアサポーターの養成を検討する。ピアサポーターが何をやる人か、ピアサポートについてまだまだ普及啓発が追いついていない状況。皆が理解してから取り組み始めるのでは遅いと思い、まずはピアサポーターの養成ということで、ピアサポーターを役割として活動してもらえる当事者と出会いたいと思っている。その人に啓発活動の一端を担ってほしい。支援については、病院に入ることは難しいと病院からも聞いているため、啓発活動から行う。</p>
<p>(5) 医療的ケアさぽーと部会の事業報告について、事務局『キッズラバルカ』川北氏から説明。</p>	
<p>部会長 澤野氏</p>	<p>災害を想定した避難シミュレーションを行って課題が出てきたことが部会でも話題に挙がった。医療デバイスは精密機器になるため、取り扱いに注意しなければいけない。慌てた場面で取り扱いを注意するというのは難しいため、シミュレーションは大事だと感じた。受入体制について、コロナ禍で進められなかったため、今後は進めていきたい。また、みよし市は医療的ケア児等コーディネーターでWGを作っていて、そこにはあらゆる職種の人がいる。全国的に珍しいと思っていて、幅広い意見交換ができていたので今後もWGを中心に進めていきたい。医療的ケア児支援法ができて2年弱。今は過渡期にあり、学校や保育所に対しての要望が強く出ている中で学校や保育所、保育士、先生が困っていると医療者として思う。横の繋がりを強化して連携しながら、子どもたちが楽しくわくわくと地域で暮らせるように、部会でも活動していきたい。</p>

構成員名	意見（質問・回答）等
衣浦東部保健所 杉原氏	保健所でも退院後支援事業があり取り組んでいる。事例ごとに課題がある。部会の事例検討の中でも一緒に考えていきたい。
精神障がい者家族会 畠中氏	年々自分の中に焦りがある。子どももだんだん外に出られなくなっている。シエルブルーの職員に訪問を月1回してもらっているが、それだけでも自分の中で違う。家族だけでなく、外の風が入ることは大きい。障がいの重い子どもを育てた母親のビデオ見たことがある。今まで自分目線で良くなってほしいことばかり考えていた。自分が変わらなければと思った。親の息抜きも重要。
いきもの語り 水井氏	今回災害時シミュレーションに参加した。母親が10分程度で準備していたが、子どもの物だけだった。1人で荷物やデバイスを持って避難するのは難しい。また、前もって必要物品等の確認をしていなかった。実際には両親の荷物も含めると倍ほどの荷物になるかと思う。緊急時に備えた物品リストを作成する必要性を感じた。避難所は、要配慮者の避難先が1階であるため、2階の入口から入ると階段を降りなければならず、車椅子の人は1階から入る必要がある。1階は通常時は閉まっていて災害時にすぐ開くのかは分からないということだったため、多くの協力が必要だと思う。電源確保が問題のため、発電機等の準備や協力機関等今後考えていかなければならないと思った。
学校教育課 長谷川氏	医療サポートをしてもらえるようになり、子どもたちは自立に向け生活に自信がついて頑張っている。自然教室や野外学習等に行けるか不安だった子も、4月からしっかりサポートしてもらったおかげで自信がつき参加できた。教員としては、子どもを預かって安心して過ごせることを目標にしている。そのサポートをするため、いざという時に対応できる対応力が求められる。教員向けの研修が今年度も9月にあるため大変ありがたい。現場として、普段の医療サポートは大丈夫だが、いざという時の支援体制、教員がきちんと動けるのか不安もある。毎年どの学校もエピペンのシミュレーション等を行って対応訓練しているが、医療については始まったところで経験も不足しているのでサポートしてほしい。
構成員名	意見（質問・回答）等
副会長 阪田氏	検討チームと部会の今年度の取組が明確になり非常に良かったと思う。地域共生社会について、障がいのある人が安心して暮らせるためにどうしたらいいか自分が話す時によく使うキーワードが4つある。最初は「我が事」。自分だけ考えるのではなく、自分事として考える姿勢を持つことが大事。次に「連携」。相手の強みと弱みを知る。次は「役割」。今の自分で何ができるか考えるようになる。それがこの協議会だと思う。最終的にみよし市で暮らすということは、「生きる」ということ。このまちが好きになり楽しく生きることは根底にある。「生きる」ことを主にして、連携したり、自分事になって考えることをしなければいけない。まずは課題を共有する必要がある。
3 その他（各機関からの連絡事項）	
事務局福祉課清水から説明。	

今年度は障がい者計画、障がい福祉計画、障害児福祉計画の策定の年度。また自立支援協議会の構成員の方々にもうご協力いただくことが多々あると思う。よろしくお願ひします。

令和5年度第2回の全体会は、11月24日の金曜日午前10時からを開催予定。

－閉会－

作成	福祉課	立石 恵莉	R5.8.7
----	-----	-------	--------